

京都教区時報

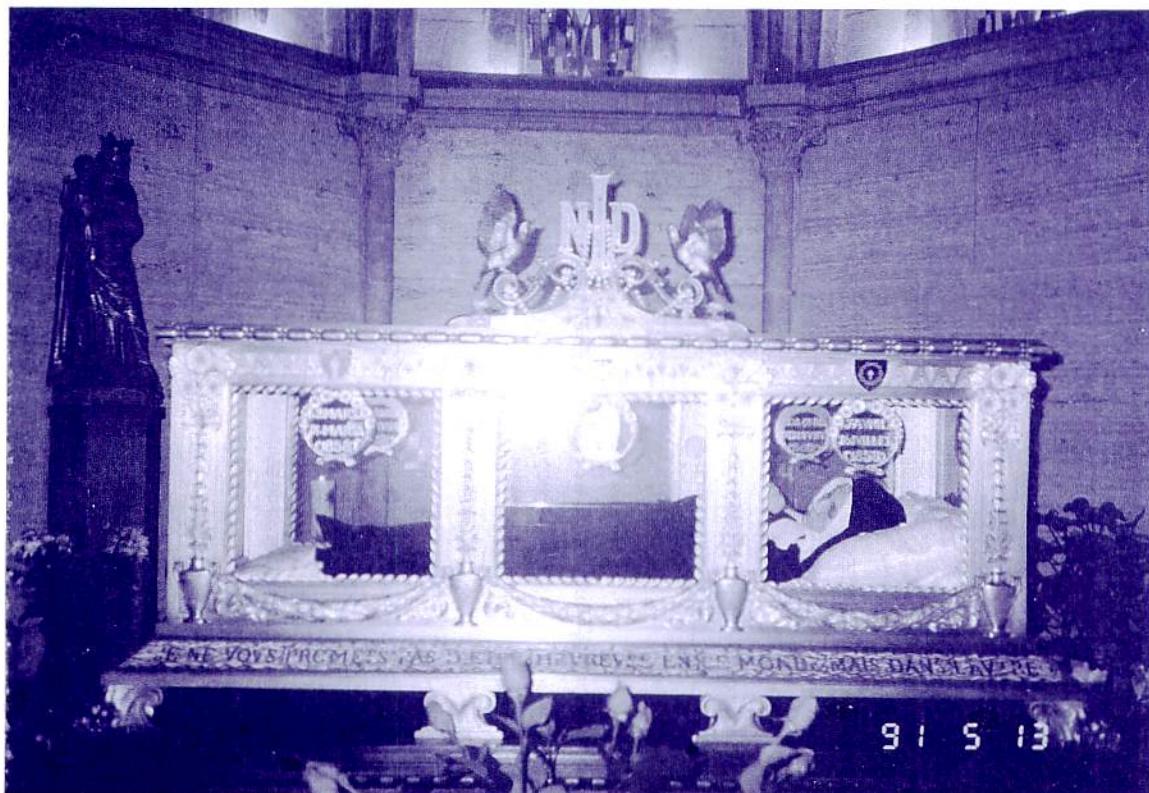
第182号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



眠っているのですか、それとも
亡くなられたのですか
いいえ、もっと美しく輝き
あなたは、今、何を見ているのですか
あなたは何を語るのですか
あなたが地上で見た方を
今天上で永遠に見て楽しむ
死は命に囲まれてあり
死は命と共にある
信じる者は地上でも神にまみえ
天上で神の愛に包まれて生きる
永遠の喜びの中に生き
あなたは愛したものを見る
死は神を見る事なのだ
死は神に帰る事なのだ
神を見て人は永遠の命にある
神を見て人は永遠の愛にある
この生命のはじめを
私達はある家庭に受けた
この生命の完成を、私達は
天の樂園で味わうだろう
死者の月に観う
そのいのちのはじめを想う

(村上透磨神父)
写真はヌヴェール会本部修道院(フランス)
聖堂に安置されているベルナデッタの御遺体

なぜ、今、「家庭」なのか

聖ヴィンセンティオの愛徳姉妹会 橋本瑠璃子

●部落差別の観点から

人間の真の尊厳を阻む部落差別の観点から、「家庭」を考えて見たい。すでに、日本カトリック部落問題委員会から、NICE2(第2回福音宣教推進全国会議)

への提案文を出しましたのでお読みになつた方もおられることでしょう。

「今さら差別なんて」、「人間

社会ある限り差別はつきもの」

「差別はなくならないのよ」とよく耳にします。私達が本気でそのようなことを考えて生きているならば、私たちの信仰は、空を撃つものとなり空しい。

私たちはキリストの生き方に倣う者として、ハイといって洗礼を受けました。それは私たちを取り巻くあらゆるしがらみから解き放たれて、神に向かつて生きるためにでした。キリスト自身「福音」として、私たちに与えられ私たちの内に住み、神と人との間に作った柵を壊し直接に神に行けるようにしてくださいました。そしてキリストにおいて私たちは兄弟となつ

たのです。

このように考えるとき、教会は

「神の家族」として、素晴らしいと喜ばずにはいられないのです。

にも関わらず教会の現実は内に差別を含み、抑圧者となつてることに気付いていないという悲しい事実があるのです。

●心の中にこそ問題：

第一に家庭こそ、ゆりかごから墓場までを準備する教育の現場であり、原点であるのです。そこは素晴らしい人権教育、反差別教育

人格を育むところです。第二に、

第一を満たす条件として、その家庭は反差別の人権教育が家族間で行われているということです。それは言葉だけでなく態度に現われていることです。

しかしながら、「神の子ら」の

教会も、社会一般の常識と変わらず、被差別部落がマイナスイメージで親から子に、祖父母から孫に

と「あの子と遊んだら、あかんよ」「あそこは怖い所だからいつちやいかん」「汚いから」等と差別意

識が吹き込まれていくのです。こ

のように家庭を通して差別教育が行われ、学校で反差別教育を受けた、「それは本当じゃないよ」と否定されると子どもはより信頼のある家族の話を信じて受けるのです。

部落差別の原因が、「柄が悪い」「教育がない」「貧しいから」とよく聞きますが、それらの状況が満たされても尚且つ、差別が残るのは、差別されている人に原因がないではなく、「あの子と遊んじやいけないよ」「部落の人と付き合わんときや」という人々の心にこそ問われる間違った考えがあるからです。

●部落差別のキーワード

部落差別のキーワードは、「出自」と「血縁」が問題とされています。同じく「出自」と「血縁」という世界で生きている人達がいます。それは天皇家であり、

皇族であるのですが、彼らは「貴い」人として自らを保持するためたキリストの生き方と全く相容れないものであることは言うまでもありません。

インプットされたマイナス文化は、人間の深層心理にまで入り、そうしたやすく除去されるものではないが、反差別学習とキリストが立った福音の視点を奪還するため信仰のトレーニングが必要とされるのです。

ていきました。

そして「血統」「血縁」の信仰が「家」制度をとおして受け継がれ、あたかもある人は生まれながらの「貴い人」として扱われ、対極の「人」は、生まれながらの「汚れた人」として扱われ、人間性を奪われ、結婚、就職などの基本的人権の侵害が何世代にも亘って続いているのです。

教会員もまた、この「血縁」信仰の抑圧文化の影響をうけ、「汚れた」者の「血」が自分たちの「家」に入ると恐れ、自分たちも「差別される仲間」にされてはいけないと「家の血縁」を護ろうとして差別してきたことを告白せざるを得ないのです。

▼正義と平和協議会講演会から

人と自然とともに生きよう

郡司島祥生(西陣教会)

8月9日「人と自然」をテーマに、平和への歩み南ブロック講演会が行われました。講師は、京都市の北部賀茂川の源流近くにある岩屋山志明院住職田中真澄師。

京都府は、百年に一度あるかないかの洪水に備えて、この地区にダムを作る計画を秘密裏に行っていました。住民にお金をちらつかせ土地を買収したり、ダムが出来れば道路も広げ地域の活性化にもなる、などと裏工作をしていました。

それを知った和尚は、これは

大変大切な自然が壊される、動植物の生態系も変わってしまふ、森林がなくなれば保水能力を失いかえつて洪水になる。ダムには長時間水をたたえるために腐敗し汚い水を下流に流すことになる。

ダムの寿命は百年と言われて

いるが、最近の統計では、土砂の堆積によつて数十年で使えないくなるという。使えなくなつたダムは元には戻らず荒れた墓場になってしまいます。

百年に一度あるかないかの洪水のために、どうしてこんなダムを作るのか。和尚は、学者、文化人、地元住民、一般市民に必死に呼びかけて、ついにこの計画を撤回させた。

私たちが生きていくうえで、水や自然がいかに大切であるか、ご自身の体験談を交えながらのお話でした。

自然も人も神がつくられたもの。なれば、人が勝手に自分の都合のよいように自然を破壊してもよいのだろうか。

人にとって自然は絶対に必要であるが、自然にとつては、人には必要なのである、という言葉が印象的でした。

地球を救うために立ち上がったシスターたち

タイトルはいささか大袈裟に

すぎますが、去る8月30日京都教区修道女連盟の活動の一つと

して、高野川清掃のキャンペーンが行われました。この催しは

本年度最初の集会で、京都大学環境保全センター教授高月紘先

生のお話を聞いたことがきっかけとなり、私たちも出来ること

……ということで計画されたも

のです。

当日、午前10時高野教会に集

合したシスターたち20余名は、高野教会から参加してください

た6名の方と一緒に高野橋周辺のゴミ集めに取りかかりました。

連日の晴天続きで水かさは少なく、川の土手ばかりではなく、

水の中まで入り作業をするこ

とが出来ました。熱心のあまり、

ゴミ集め 首まで水に修道女
此処破壊 ゴミが目につき止められず
ゴミ集め 終えて見渡す 川清じ

修道女本年度会長

村田久子

聖書週間によせて

られているでしょうか。そのためにもぜひ聖書を大切にしていただきたいと思っています。

京都教区聖書使徒職委員会

聖書週間行事

11月15日から11月22日は聖書
週間です。すべての人々、持こ

信徒が聖書に「より強く関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるために定められました。もちろん、聖書週間でなくとも、毎日の生活の中でみことばに親しみ、生きてゆくのは当然のことですが、特にこの期間にはそのことに心を向けるよう勧められています。

●私たちを変えるみことば

聖書は、私たちが福音を生き、それを伝えてゆくための原点です。二千年近く前に語られ、まためられたのですが、みことばの一つ一つが、今、わたしに語りかけ、変わるように働きかけています。しかしながら、教会の中でも、聖書が充分親しまれていないのが現状です。教会の中で、解決してゆくべき諸問題も、キリストの視点から考え

●司教メッセージ

さらに、聖書週間の日曜日11月15日にもむけて、田中健二司教から聖書についてメッセージ（書簡）を各教会に出していただきすることになっています。それぞれの小教区・共同体で活かして下さるようお願いします。

ご案内

啓光学園の文化祭に展示する
『ザビエルの街道を歩く』に因
んで、ザビエルの歩いた道を実
際に歩いてみる計画を立てまし
た。

①実施日時・1992年11月8日(日)
 ②集合時間・午後12時30分
 ③集合場所・京阪電車「天満橋駅」西改札出口キヤツスルホ
 テル前(啓光学園の旗を目印)
 にしてください。)

史実としてはつきりしているのは、「鳥羽の港から船に乗り、淀川を下ったこと、当時の主要な街道は「熊野街道」であった

八軒家浜舟着場跡→安堂寺町
→四天王寺→阿倍野王子→住吉大社→路面電車で堺市の戎(ザビエル)公園へ。

⑤ 申込用

葉書に住所（電話）、氏名、
年令を記入の上

573
大阪府枚方市禁野町1丁
目13-12 0720-48-0521

啓光学園中・高等学校郷土史
研究部「ザビエル街道を歩く」
係／高橋宛申込んで下さい。

（問合せも同じ）
⑥申込み多数の場合先着30名まで。

『ザビエルの街道を歩く』

キリスト研究会からのお知らせ

臨時宣教司牧評議会

9月26日～27日

開催目的

「よりよき福音宣教共同体となるために(適正配置)」アンケート調査結果を、よりわかりやすいものとするためにとの司教の諮問(時報179号参照)を受けて、より分かりやすい資料の作成と分析を行なう。このため8月28日常任委員会を開き、臨時司牧評議会の準備会を開き、評議会報告に反映するの集まりをした。(常任委員会の報告は、評議会報告に反映するのでここには省略。)

報告事項

ナイスの準備委員会の報告

①ナイス準備委員会13名選出

②ナイス2に向けての京都教区の取り組み

(尚、この報告はナイス準備委員会からの報告参考)

本題

・アンケート17項目(前号180号参照)

を5項目にわけて、5グループで検討分析する。

・検討内容

1 昨年12月、司牧評議会で行つ

たアンケート評価、まとめに追加意見又はまとめ方について意見を聞く。

4グループ 「小教区建築、改築、維持費のブール制」

2 アンケート結果をふまえて、これをどう具体化すればよいかについて意見を問う。

この2つの質問をあらかじめ各評議員に考えておいて頂き、当日それを分かち合つた。5つのグループの検討内容の方向性の参考指針は次の通り。

(1) 現状認識

(2) 将来に向かつての具体案

1グループ

「司祭召命増加のための努力」

a 司祭職に対する考え方の把握

b 今後の展望と具体案

2グループ

「司祭信徒の自己刷新」

a 練成会などに参加した後の変化を見る。

b 今後具体的に何をなすべきか探る。

3グループ

「小教区運営のあり方」

a 宣教共同体としての小教区の現状の展望を見る。

b その展望に向かい何をなすべきか。

5グループ 「小教区配置の適正化」

a 京都教区全体が「よりよき宣教共同体」となっているか否かを見る。

b 今後さらによりよき拠点となるための提案。

6グループ

「小教区配置の適正化」

a 京都教区全体が「よりよき宣教共同体」となっているか否かを見る。

b その具体的な方向性を探る。

討議は以上を参考にしながら、自由に行われた。しかし、この具體化への提案に至るまでには十分な時間もなく、12月の定例会に持ち越されることになった。

これは私見であるが、その間により具体的な対策について、みなさんの御意見を伺えればと思う。

これは信徒一人一人の切実な問題なのだから、その具体策についていろんなご意見もあるし、またすばらしいお考えをお持ちの方もあるに違いないからである。

尚、アンケートのその他の意見の中には、その様な具体的な意見も随所に見られた。

司牧評議会の任務は具体的な決定を下すことではなく、司教の諮問への答申と提言をすることにある。具体的な決定は全く司教様の権限に属する。答申又は提言の内容を出来るだけ時報などを使い報告申し上げたい。

尚、今回の議事録作成は司牧評議事務にまかせられており、その正式の報告書は出でていないし、それでは、より詳しい報告を加えながら、教区民の意見を取り上げてもうかる事が望ましい。京都教区アンケート「よりよき宣教共同体となるために(適正配置)」は各教会に送付されており、これを参考に検討していただきたい。また、司教の要請により、よりわかりやすいものを次回評議会で作成する手筈を整える事になつていて。

今報告は味も素つ氣もない冷たいものに思える。しかしそこで語られている内容は、信徒として最も身近な自分達の身に及ぶ、とてもエキサイティングなものである。

適正配置の問題は私達自身の自己刷新と回心に連がり、信仰の見直しも要求されるとても重要な事である。

(文責 村上)

12月

教区スケジュール

5日(土)または6日(日)	国本神父の典礼音楽講座 (西院カトリック会館)
6日(日)	結婚相談室開設 (河原町カトリック会館 6階ホール)13時~15時
8日(火)	青谷教会堅信式 (河原町カトリック会館)
12日(土)~13日(日)	部落問題委員会学習会 (河原町カトリック会館)
13日(日)	宣教司牧評議会 (河原町カトリック会館)
14日(月)	子羊会クリスマス パーティ(大津教会)
19日(土)	クリスマスミーティング 終業式 (聖母女学院中高等学校)
24日(水)	あなたとクリスマス (九条教会)19時 (河原町教会)
27日(日)~29日(火)	S A D E「若者エンカウンター」 高校生 (奈良)
行事予定	市民クリスマス

安曇川教会献堂30周年を祝つ

秋晴れもさわやかな9月6日、

琵琶湖の西北にある安曇川教会

(唐崎巡回・西野神父)は献堂30

周年を祝いました。田中司教様司

式による記念ミサには、ウォルケ

ン神父様、山田神父様はじめ、

近隣教会や小教区から多数お祝い

に駆けつけていただき、喜びを分

かち合うことが出来ました。

敷地や聖堂は見劣りはしません

が、信徒数も少なく、老齢化して

いるにもかかわらず、唐崎教会の

パックアップもあり、全員が各々

のタレンット性を發揮してひとつ

事を成したことで「やれば出来る」

という自信が出来ました。単なる

祝賀行事に終わることなく、安曇

川地区の人々と福音の喜びを分か

ち合えるきっかけにしたいと一同

心をあわせて祈りました。

(文責・永松正剛)

▼召命默想会
あらわせ
お知らせ
日時 11月21日(土)から23日(月)
場所 日本カトリック研修センター
費用 18,000円
申込み 申込み金3,000円を添えて11月14日までに送付。146名古屋市昭和区広路町隼人30
日本カトリック研修センター研究企画部
No.11福音宣教コースI(九州会場)

9月23日、河原町カトリック教

会でマリア会の高田裕和助祭の

司祭叙階式が田中司教によつて

行われました。高田新司祭は1

957年京都生まれ。河原町教

会で受洗。その後西院教会に移

り、78年マリア会入会。

対象	未婚の女性
費用	4,000円
申込み	11月10日までに電話または葉書で左記へ。
No.10福音宣教コースIII	聖ドミニコ宣教女子修道女会
対象 信徒、修道者、司祭	664兵庫県伊丹市高台5-1-28 担当 Sr.坂井

▼日本カトリック研修センター

秋季コース案内

「社会のただ中に生きる」

定員25名

桂教会075-381-3268

西院教会075-841-1023

申込み・問合せ

松本・北村神父迄。

桂教会075-381-3268

西院教会075-841-1023

申込み・問合せ

松本・北村神父迄。

●叙階式

9月23日、河原町カトリック教

会でマリア会の高田裕和助祭の

司祭叙階式が田中司教によつて

行われました。高田新司祭は1

957年京都生まれ。河原町教

会で受洗。その後西院教会に移

り、78年マリア会入会。

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)京都市右京区西院寿町23
(075)312-7829

帰天

チャーチ・エドワード・ボラ

ス神父(メリノール会)

9月8日午後9時、カトリック

伏見教会で糖尿病のため帰天。

40才。81年来日し、京都教区津、

久居教会の助任司祭。89年伏見

桃山教会主任司祭。

(広報・松尾)

▼「一万匹の蟻運動」基金報告

累計919,533円

加入者数526名

9月16日現在